ドイツにおける現代絵画について
—皮肉・ユーモア・政治的社会的表現

詫摩昭人

——要旨

ドイツの絵画としてすぐに思いつくものは、古くはデューラー（Albrecht Dürer、1471-1528）、もしくはフリードリヒ（Caspar David Friedrich、1774-1840）、現代ではリヒター（Gerhard Richter、1932-）やキーファー（Anselm Kiefer、1945-）かもしれない。しかし、ドイツの美術を鑑賞すると皮肉やユーモア、政治的社会的な作品が多いことを特に感じる。そこで今回、ドイツの主要作家1414人を調べ、どれくらいの割合で、そのような作家がいるのかを調査した。また現地でのインタビューも交え考察した。

1. はじめに

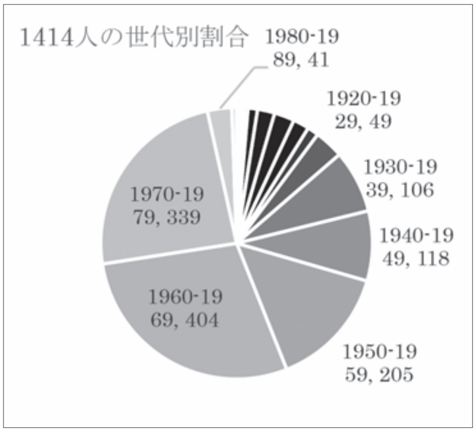
筆者は1993年にベルリン、ミュンヘン、ケルン、デュッセルドルフ、ボン、メンヒェングラートバッハ、カールスルーエ、カッセル、ダルムシュタット、ハンブルク、ブレーメン、フランクフルトの美術館を約1ヶ月かけて鑑賞した。周知の通り、ドイツは地方自治が進んでおり、どの地方にも優れた美術館があり、特に驚かされるのが、現代美術を含むコレクションが充実していることである。まさに美術においては世界の最先進国の一つといっても良いだろう。その中で特に記憶に残ったのが、当時、マックス・ベックマン（Max Beckmann、1884-1950）の作品をよく見かけたことであり、当時の筆者には、良さがわからないまま強烈な印象だけが残っていた。その後もドイツの美術には、ボイス（Joseph Beuys、1921-1986）を始めとして常に刺激を受けており、2007年にはカッセルで5年に一度行われるドクメンタ、また、10年に一度開催されるミュンスター野外彫刻展も鑑賞した中で、やはり日本の美術とは大きく違う印象を受けた。そこで、今回どれほど、ベックマンも含む皮肉やユーモア、政治的社会的な作家がいるのかを調べた。調査方法は、ArtFacts.net (1) のアーティストランキング10000位以内のドイツ国籍の作家全員を対象とし、キーワードにより分類し、また、現地でのインタビューも交え考察した。ランキングを使用したのは、調査するにあたりどこかで線引きをしなければならなかったことが最も

大きな理由である。ArtFacts.net は現在最も確実なアーティストランキングであるが、当然、ランキングは指標の取り方、重み付けに課題があり、欧米の物差しであるために日本には不利な部分も多々あるのは十分に承知の上である。また 2014 年 4 月 1 日時点でのランキングとし、10000 位以内とした理由は、4 月 1 日時点で 10000 位以内にドイツ国籍の作家は 1414 人もいたために、一人一人調べていくにはこの数が限界だと認識した。今回調査して明らかとなった 1414 人いた事実だけでも、いかにドイツが大変な美術大国であるのかを痛感した事実であった。10000 位に入るためには、相当数の公の展覧会を行わなければならない。例えば約 9900 位の作家の公の展覧会数が 32 本にもなっていることで理解できよう。また、キーワードで分類したとはいえ、ここに入る作家はすべて、本来、それぞれに独立してオリジナリティに優れた作家であることは言うまでもないことであることを付け加えておく必要がある。ここまで広範囲に調べた先行例はなく、貴重なデータとなると考えている。

2. 調査方法、キーワードの設定

まず、1414 人を生年順に並べた。グループで活動している作家は年長の作家の年として並べた。1414 人の中でどうしても生年がわからない作家が、8 人いた。10 年ごとに区切り世代別に見ると以下の表となる（図 1）。この表からは 1960 年代生まれの作家が 404 人で最も多く、次いで 1970 年代生まれの作家が 339 人で多いことが解った。この 20 年の間だけで、全体の 52.5％になるので、十分に同時代のアートを視野に入れた調査だということが言えるであろう。二つ以上の国籍にまたがる作家も加えた。しかし、ドイツで活躍しながら国籍がドイツでないものは外した。一方、ドイツ国籍でありながら、ドイツ以外で活動している作家は加えた。極めて広範囲であるために、出来るだけ作業は機械的に行えるように国籍だけで区切ることにした。またこのランキングは 1800 年以降生まれの作家となっているので、それ以前の作家は含まれていない。1414 人の作家の中でどれくらい、皮肉やユーモア、政治的社会的な表現につながる作家がいるのかを探す作業である。調べていく上で驚いたのが資料の多さだった。若い世代にもかかわらず、かなりの割合で作家のウィキペディアは存在しており、事細かに書かれている。作家のホームページももちろん存在しているが、最も参考にしたものはインターネットサイトマガジンの Frieze や Contemporary Art Daily、ARTFORUM、Monopol、artnews.org、Art in America による作家紹介や展覧会評、または、ニューヨーク近代美術館や

図 1　ドイツ美術家の世代別割合



テートギャラリーなどの美術館サイトの作家紹介だった。50％以上は1960年以降生まれの作家なので、評価の定まっていない作家も多い中での作業だが、出来るだけ機械的に行えるように、作家紹介の中に、直接、「皮肉」「ユーモア」「政治的」「社会的」の言葉があるものはすぐにカウントできる。例えばこうである。2012年に東京都現代美術館でも大規模な個展を行ったThomas Demand（1964～）のFriezeにおけるJenni Sorkin氏による展覧会評では、“The most political piece in the show, Podium references a moment of enormous political and social calamity that the West never actually experienced firsthand.”(2)とある。このようにpoliticalやsocialの言葉が作家紹介にそのまま出てくるものをカウントしていった。

しかし、そうでないものに対してのルールを決めておく必要があるだろう。この調査のきっかけは、マックス・ベックマンに始まるので、まず、ベックマンを紹介する。マックス・ベックマンは1884年ライプツィヒ生まれの自画像を含む、人物中心の黒い輪郭線が特徴の油彩画を多く残した画家である。「ベックマンの作品をみわたすと、ギリシャの神々、北欧のサガに登場する人物たち、先史の偶像たちもいれば、いかにも20年代、30年代風の紳士淑女、あるいはひもや売春婦にもことかかない」(3)。ベックマンはドイツ表現主義を代表する作家とされるが、ドイツ表現主義とは、1900年初頭にドイツで盛り上がりを見せた一連の作家たちを指し、表現主義を意味する「”Expression”とは文字どおり、”Impression”と芸術的な方向性を異にする概念である」(4)からも理解できるように、Impressionであるフランス印象派に対抗する立場としてしばしば述べられ、ムンクやゴッホをその前身とし、作風は激情的な描写、奔騰するファンタジー、精神の絶対性(5)、不安を表現していると言われる。「印象主義は夢のない芸術である。それは現在という瞬間しか知らず、神話と歴史はその画面からとりのぞいてしまった。一方、表現主義とは、それとは逆に、ありとあらゆるところに内面の独白を表現するための象徴を探しもとめたのである」(6)。時代はアメリカ中心のモダニズムな抽象絵画へと突き進む中、ベックマンはグロテスクで絶望的ながらユーモアのある具象絵画を描き続けたのである。人間の内面の表現や精神性を重んじ、見て美しい作品より、暗く、重たいものが多い。皮肉、ユーモア、政治的社会的な記述がなくても“具象絵画で暗く、重く、激情的なもの”は今回選びたい。そのように考えた場合、複数のドイツ独自の主義や派があるので次に考察することにする。

まずはベックマンの生まれ故郷でもあるライプツィヒでは、ライプツィヒ派と呼ばれる作家たちがいる。社会主義リアリズムともいわれ、当時の東ドイツ政権を暗に批判しているところもあり、独自の具象絵画が発達した。今回の調べた1414人の中でライプツィヒ派としてもっとも年長であるBernhard Heisig（1925-2011）は、ベックマンやココシュカに影響を受けており(7)、具象でありながら、極端にデフォルメされた作風はまさに、表現主義に似たものを感じる。ライプツィヒ派とそれに続く新ライプツィヒ派も、メッセージ性の強い具象絵画なので、キーワードに加えることに問題ないと考える。また、1970年代に盛り上がりを見せたバゼリッツ（Georg Baselitz、1938-）を含む新表現主義がある。筆者はミュンヘンのハウス・デア・クンストで、2014年9月に大規模なバゼリッツの回顧展

を見ることができた（写真1）。高さ3m以上もある大作が30点以上並んでおり、激しい筆跡ながら、あくまで具象のイメージがある。また多くは天地が反対に描かれていて、挑発的であるが、ユーモアも感じる。写真1も、人物が天地逆さまに描かれている。他にも、新表現主義を代表する作家としてキーファーがいる。こちらも2014年11月にロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで大きな回顧展を見ることができた（写真2）。筆者もこれまでに数多くの展覧会を見てきたが、ここまで大規模な絵画の展覧会は生まれて初めてで、凄まじい限りだった。「驚愕の一言」[8] という展評もある。新表現主義もメッセージ性の強い具象絵画なので、キーワードに加えても問題ないだろう。また、キッペンバー

写真1　ミュンヘン、ハウス・デア・クンストのバゼリッツ展

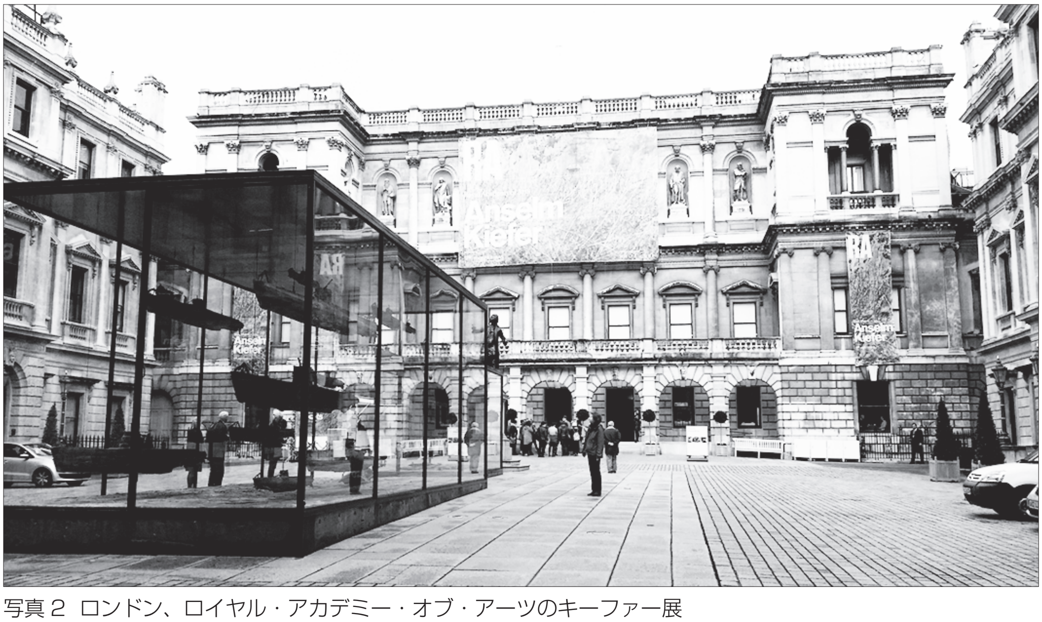


写真2　ロンドン、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツのキーファー展

ガー（Martin Kippenberger、1953-1997）を含む新野獣派と呼ばれる作家たちがいる。キッペンバーガーの作品は、「絶望的な状況を利用して、生産的な材料にする方法を知っていた」[9] と述べられ、新野獣派も絶望をユーモラスに変更してしまうところがある具象絵画なのでキーワードとしても問題ないだろう。また、1930 年代にヒトラーにより弾圧を受けた退廃芸術に選ばれた作家も政治的な弾圧を強いられたのでキーワードとして加えたい。

一方、皮肉やユーモアの表現として、ベックマンと同様に表現主義の中で重要な作家に、オットー・ディクス（Otto Dix、1891-1969）がいる。オットー・ディクスは、「残酷なユーモア」[10] として述べられることもある。このユーモアもドイツ芸術の重要な要素として捉えることができ、先行世代としてはスペインのゴヤ、そしてドイツのデューラーまで遡ることができるという見方もある [11]。皮肉やユーモアにつながる言葉として、アイロニー、風刺、悪ふざけ、遊び心、不条理（不合理）、死、破壊の言葉で紹介されたものも選ぶことにしたい。そして、絵画以外の作家であるが、ドイツで最も影響力のあるヨーゼフ・ボイスの関連作家である。ヨーゼフ・ボイスはよく知られているとおり、政治的社会的活動が盛んな作家で、教え子も多い。

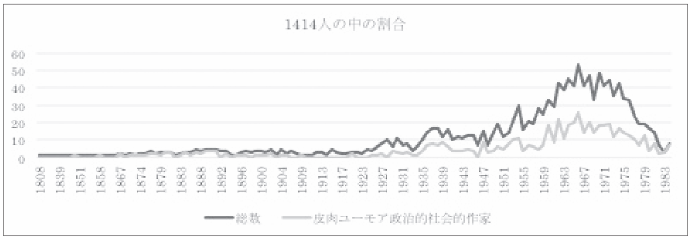
しかし、最終的にはそれぞれの作品そのものである。一人一人の作家を調べながら、様々な書物やレビューの中での作家紹介の記述を確認し、政治的社会的表現につながる、例えばフェミニズムやナチスをテーマとしている作品や、ボイスが特に有名だが、参加型の作品も社会的と判断したい。

ここでキーワードを整理しておく。表現主義、ライプツィヒ派、新ライプツィヒ派、新表現主義、新野獣派、退廃芸術、作家紹介の中に皮肉、ユーモア、政治的、社会的、フェミニズム、ナチス、参加型作品、アイロニー、風刺、ジョーク、悪ふざけ、遊び心、不条理、不合理、不安、暴力的、激情的、破壊、死、グロテスクを含むものである。

3. 1414 人について

1414 人を生年順に調べていく中でまず目に付くのが、退廃芸術展に選ばれた作家である。退廃芸術とは、「1937 年に、ヒトラーの、従ってナチの気に食わない、表現主義を初めとする近代芸術を誹謗するために、それを、〈退廃芸術〉と銘打って、いわばさらしものにした」[12] 展覧会である。1414 人の中で退廃芸術関連作家として最も年長が、Christian Rohlfs（1849-1938）で、最も年少が、Fritz Winter（1905-1976）である。生年順にそれまでに 117 人の作家を調べたが、その内、退廃芸術関係の作家が、46 人いることがわかった。割合では 39.3％である。この数字は後に考察することにする。そして、1921 年生まれのヨーゼフ・ボイスの登場である。ボイスは、退廃芸術とされたデュッセルドルフ芸術アカデミーの教授である彫刻家、Ewald Mataré（1887-1975）に彫刻を学んでいる [13]。ボイス後は、あまりに膨大な資料なので、少しだけ紹介したい。例えば、1963 年ハンブルク生まれの、Olav Westphalen は、ただひたすら自転車を運転するだけの映像作品がある [14] が、

図２ 皮肉ユーモア政治的社会的作家の世代別割合



自転車の車輪２つともがナチスのシンボルである鉤十字のマークになっているのである。明らかに皮肉、ユーモアを感じる作品である。また、1972 年生まれでベルリンを拠点に活動する Aram Bartholl は、誰もが知っているであろうグーグル地図で検索をかけた時に出てくる赤いマークを高さ 10ｍほどの実際の立体物にして、特定の場所に展示する作品を作っている。筆者も、デュッセルドルフ郊外を車で移動している時に偶然にも目にしてしまった。田舎のなんの変哲もない公道の脇に巨大なマークが設置されていたのである。あまりに突然だったので撮影する間もなかったが、一般的な場所にこのようなものが設置されていること自体、ユニークというほかない (15)。一つ一つ上げるとキリがないのだが、最終的に 1414 人の内、どれだけ表現主義から続く皮肉やユーモア、政治的社会的と判断できる作家がいるのかというと、実に合計 558 人にもなることが今回の調査で明らかとなった。これら選んだ作家の画像一覧をネット上にまとめているので確認して欲しい (16)。これらは著作権の関係でこのようなシェアをするかたちでは問題のないものばかりである。画像を見るために無料のアカウントを取得する必要がある。作業を進めていく中で、あまりに型にはまらない作家の多さにただ驚くばかりで、多様性に満ちているところが、ドイツ美術の魅力であると言えるであろう。1414 人の内、558 人なので、割合では 39.5％となる。世代別にわけたグラフが図２である。どこかの世代の割合が突出して多いわけではないことが今回の調べで明らかとなった。

3. ドイツにおける現代絵画について

既に前項で述べたように政治的社会的作家が４割弱いることは理解できた。さて、次にはこの中から絵画のみを取り出してみてみたい。絵画の定義だが、平面作品を作る作家としたが、写真家は外した。また、絵画のみならず彫刻も作る作家は含めた。その結果、1414 人中、674 人が絵画の作家となった。全体からの割合では、47.7％が絵画の作家となった。引き続き、その中でどれだけ前章の皮肉、ユーモア、政治的社会的な作家と重複しているのかというと、268 人となった。674 人からの割合で考えると、39.8％なので、この数字は、前節で得た数字とほぼ同じであることがわかった。よってインスタレーションだから政治的社会的な作家が多いとか、絵画だから多いということでもないことが今回の調査で明らかとなった。そして以下が 268 人のリストで、生年順に根拠の一つとなった参考資料とキーワード一覧である（表１）。また、ネット上でも図版を確認することができる (17)。

表 1　ドイツ絵画における皮肉ユーモア政治的社会的作家一覧

	作家名	生年	キーワード	参考文献、参考URL	最終閲覧日
1	Christian Rohlfs	1849-1938	表現主義、退廃	http://www.ketterer kunst.de/bio/ChristianRohlfs-1849-1938.php	2015年8月12日
2	Lovis Corinth	1858-1925	風刺、退廃、後に表現主義	http://www.musee-orsay.fr/en/events/exhibitions/in-the-musee-dorsay/exhibitions-in-the-musee-dorsay-more/article/lovis-corinth-7834.html?print=1&	2015年8月12日
3	Käthe Kollwitz	1867-1945	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.47→4)と同じ	
4	Emil Nolde	1867-1956	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.72	
5	Ernst Barlach	1870-1938	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.80	
6	Lyonel Feininger	1871-1956	表現主義、退廃	http://whitney.org/Exhibitions/LyonelFeininger	2015年8月12日
7	Otto Mueller	1874-1930	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.58	
8	Paula Modersohn-Becker	1876-1907	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.30	
9	Alfred Kubin	1877-1959	ムンク、ゴヤ影響、グロテスク	http://www.artnet.com/artists/alfred-kubin/biography	2015年8月12日
10	Gabriele Münter	1877-1962	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.45	
11	Otto Freundlich	1878-1943	退廃、ボイス、フルクサスに影響	http://www.nrw-museum.de/#/mehr/biografien/detailansicht/details/artists///otto-freundlich.html	2015年8月12日
12	Karl Hofer	1878-1955	表現主義、退廃	http://www.van-ham.com/datenbank-archiv/datenbank/karl-hofer.html	2015年8月12日
13	Paul Klee	1879-1940	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.108	
14	Franz Marc	1880-1916	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.86	
15	Ernst Ludwig Kirchner	1880-1938	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.30	
16	Alexander Kanoldt	1881-1939	退廃	http://weimarart.blogspot.jp/2010/10/alexander-kanoldt.html	2015年8月12日
17	Max Pechstein	1881-1955	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.57	
18	Erich Heckel	1883-1970	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.54	
19	Max Beckmann	1884-1950	退廃	ヒトラーと退廃芸術、p.155→12)と同じ	
20	Ludwig Meidner	1884-1966	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.207	
21	Karl Schmidt-Rottluff	1884-1976	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.54	
22	August Macke	1887-1914	表現主義、退廃	ドイツ表現主義の世界、p.108	
23	Kurt Schwitters	1887-1948	退廃、表現主義、ダダ	http://www.tate.org.uk/art/artists/kurt-schwitters-	2015年8月12日
24	Oskar Schlemmer	1888-1943	退廃	http://bauhaus-online.de/en/atlas/personen/oskar-schlemmer	2015年8月12日
25	Willi Baumeister	1889-1955	退廃	http://www.van-ham.com/datenbank-archiv/datenbank/willi-baumeister.html	2015年8月12日
26	Heinrich Campendonk	1889-1957	退廃	https://www.moma.org/collection_ge/artist.php?artist_id=940	2015年8月12日
27	Hannah Höch	1889-1978	退廃、ダダ	http://www.whitechapelgallery.org/about/press/hannah-hoch/	2015年8月12日
28	Gerhard Marcks	1889-1981	退廃	http://www.biografiasyvidas.com/biografia/m/marcks.ht	2015年8月12日
29	Rudolf Schlichter	1890-1955	退廃	http://www.spiegel.de/spiegel/print/d-8810729.html	2015年8月12日
30	Franz Roh	1890-1965	グロテスク	http://www.tate.org.uk/art/artworks/roh-masks-survive-t12446/text-summary	2015年8月12日
31	Walter Dexel	1890-1973	退廃	http://www.walter--dexel.de/	2015年8月12日
32	Jeanne Mammen	1890-1976	後半表現主義	http://www.moma.org/collection_ge/artist.php?artist_id=3714	2015年8月12日
33	John Heartfield	1891-1968	政治的なフォトモンタージュ発明	ドイツ表現主義の世界、p.279	
34	Otto Dix	1891-1969	表現主義	ドイツ表現主義の世界、p.278	
35	Max Ernst	1891-1976	退廃、ダダ	ドイツ表現主義の世界、p.279	
36	Karl Hubbuch	1891-1979	退廃、ベックマン	http://www.karl-hubbuch.com/	2015年8月12日
37	George Grosz	1893-1959	表現主義	ドイツ表現主義の世界、p.278	
38	Otto Pankok	1893-1966	退廃	http://www.muelheim-ruhr.de/cms/otto_pankok_-_kunst_unter_dem_hakenkreuz.html	2015年8月12日
39	Franz Radziwill	1895-1983	退廃	http://www.van-ham.com/datenbank-archiv/datenbank/franz-radziwill.html	2015年8月13日
40	Rudolf Jahns	1896-1983	退廃	http://www.galerie-weick.com/kuenstlerauswahl/rudolf-jahns-1/index.html	2015年8月13日
41	Conrad Felixmüller	1897-1977	表現主義第二世代	http://www.moma.org/collection_ge/artist.php?artist_id=1841	2015年8月13日
42	Friedrich Vordemberge-Gildewart	1899-1962	退廃	http://www.guggenheim.org/new-york/collections/collection-online/artists/bios/822	2015年8月13日
43	Richard Lindner	1901-1978	風刺、グロテスク、不条理	http://www.ahlers-proarte.com/ausstellungen/langtext/richard-	2015年8月13日
44	Ernst Wilhelm Nay	1902-1968	退廃	http://www.ernst-wilhelm-nay.de/	2015年8月13日
45	Hans Bellmer	1902-1975	性の解放	http://www.frieze.com/issue/review/hans_bellmer/	2015年8月13日
46	Curt Querner	1904-1976	コルヴィッツ賞、戦闘的な労働者の行進を描く	http://www.art-for-a-change.com/Express/ex13.htm	2015年8月13日
47	Fritz Winter	1905-1976	退廃	http://www.van-ham.com/datenbank-archiv/datenbank/fritz-winter.html	2015年8月13日
48	HAP Grieshaber	1909-1981	政治的社会的	http://www.frieze.com/issue/review/hap_grieshaber/	2015年8月13日
49	Joseph Beuys	1921-1986	ボイス	ドイツ表現主義の世界、p.294	
50	Willi Sitte	1921-2013	社会主義リアリズム	http://www.spiegel.de/kultur/gesellschaft/nachruf-auf-ddr-maler-willi-sitte-von-paul-kaiser-a-	2015年8月13日
51	Bernhard Heisig	1925-2011	ライプツィヒ、ベックマンを伝統に政治的社会的	http://www.spiegel.de/kultur/gesellschaft/bedeutender-ddr-maler-bernhard-heisig-ist-tot-a-767854.html	2015年8月13日

52	Wolfgang Mattheuer	1927-2004	ライプツィヒ、社会的、現実批判的視線	http://www.kettererkunst.de/bio/wolfgang-mattheuer-1927.php	2015年8月13日
53	Harald Metzkes	1929 (85)	コルヴィッツ賞、社会主義リアリズム	http://www.berliner-zeitung.de/kunst/berliner-maler-harald-metzkes-sehnsucht-nach-dem-kollwitzplatz,10809186,25962568.html	2015年8月13日
54	Horst Janssen	1929-1995	ムンクに影響	http://www.whoswho.de/bio/horst-janssen.html	2015年8月13日
55	Werner Tübke	1929-2004	コルヴィッツ賞、ドイツ労働運動の歴史	http://www.panorama-museum.de/de/werner-tuebke-153.html	2015年8月13日
56	Carlfriedrich Claus	1930-1998	ナチス調査	http://www.zeit.de/1990/47/sprachblaetter-denkbilder	2015年8月13日
57	Dieter Roth	1930-1998	遊び心	http://www.kunsthauszug.ch/02_programm/2014/DieterRoth.html http://www.artspace.com/magazine/interviews_features/moma_curator_sarah_suzuki_dieter_roth_interview	2015年8月13日
58	Gerhard Richter	1932 (82)	皮肉、ナチ、テロ	http://www.tate.org.uk/whats-on/tate-modern/exhibition/gerhard-richter-panorama	2015年8月13日
59	Wolf Vostell	1932-1998	ボイス、政治イベント多数	http://www.artotels.com/berlin-hotel-de-d-10719/gerkuber/optional/artist/detail	2015年8月13日
60	Claus-Otto Paeffgen	1933 (81)	皮肉コメント	http://www.spiegel.de/spiegel/print/d-13524198.html	2015年8月13日
61	Dieter Goltzsche	1934 (80)	コルヴィッツ賞、ベックマン、ドイツ表現主義の遺産	http://www.sadk.de/goltzsche.html	2015年8月13日
62	Konrad Klapheck	1935 (79)	ユーモア	http://www.monopol-magazin.de/artikel/20106696/Konrad-Klapheck-Museum-Kunstpalast-Duesseldorf.html	2015年8月13日
63	Fritz Schwegler	1935 (79)	風刺、ユニーク	http://www.swp.de/goeppingen/lokales/landkreis_gp/Kuenstler-Fritz-Schwegler-ist-tot;art5787,2643387	2015年8月13日
64	Ingeborg Lüscher	1936 (78)	芸術と生活の境界をぼかす（ボイスを引用）	http://www.campagne-premiere.com/exhibitions/william-kentridge-ingeborg-luscher/ingeborg-luscher/press-release	2015年8月13日
65	Horst Antes	1936 (78)	頭足類	http://www.arsmundi.de/de/263977/Stahlskulptur-Figur-1000/263977.html	2015年8月13日
66	Eugen Schönebeck	1936 (78)	新表現主義、ユニーク	http://www.schirn.de/Eugen_Schoenebeck_2.html	2015年8月13日
67	Max Uhlig	1937 (77)	コルヴィッツ賞、社会主義リアリズム	http://www.focus.de/kultur/kunst/kunst-max-uhlig-wird-75_aid_771160.html	2015年8月13日
68	Johannes Grützke	1937 (77)	皮肉、奇妙、誇張	http://www.morgenpost.de/kultur/berlin-kultur/article130388620/Johannes-Gruetzke-ist-der-eigenwilligste-Maler-Berlins.html	2015年8月13日
69	Peter Herrmann	1937 (77)	皮肉、奇妙	http://www.galerie-am-savignyplatz.de/kuenstler/herrmann/herrmann-	2015年8月13日
70	Walter Stöhrer	1937-2000	新表現主義、暴力的	http://www.handelsblatt.com/panorama/kultur-kunstmarkt/walter-stoehrer-wir-verteidigen-die-preise/3641128.html	2015年8月13日
71	Dieter Krieg	1937-2005	陳腐な絵画	http://www.stiftung-dieter-	2015年8月13日
72	Georg Baselitz	1938 (76)	新表現主義	http://www.tate.org.uk/art/artists/georg-baselitz-699	2015年8月13日
73	Klaus Staeck	1938 (76)	皮肉	http://www.adk.de/de/aktuell/pressemitteilungen/index.htm?we_objectID=33448	2015年8月13日
74	K.H. Hödicke	1938 (76)	新表現主義	http://www.kapitalistischer-realismus.de/hoedicke.php	2015年8月13日
75	Bernd Koberling	1938 (76)	新野獣派	http://www.kettererkunst.com/dict/neue-wilde.php	2015年8月13日
76	KP Brehmer	1938-1997	政治的芸術の可視化	http://www.berlinischegalerie.de/ausstellungen-berlin/rueckblick/2013/kp-brehmer/	2015年8月13日
77	A. R. Penck	1939 (75)	新野獣派、社会的政治的	ドイツ表現主義の世界、p.303	
78	Klaus Rinke	1939 (75)	社会批判、ユニーク	http://blog.staedelmuseum.de/gegenwartskunst/neu-im-stadel-klaus-rinke-die-wand	2015年8月13日
79	Wolfgang Petrick	1939 (75)	グロテスク、変形、風刺	http://www.wolfgangpetrick.de/texts_feuer.html	2015年8月13日
80	Konrad Lueg	1939-1996	資本主義、現実主義、社会的影響をモチーフ	http://www.nytimes.com/2013/11/08/arts/design/konrad-lueg.html?_r=0	2015年8月13日
81	Volker Stelzmann	1940 (74)	ライプツィヒ、ディクス、グロス、政治的社会的	http://www.kettererkunst.de/bio/VolkerStelzmann-1940.php	2015年8月13日
82	Anna Oppermann	1940-1993	女性、アンサンブル	http://momaps1.org/exhibitions/view/242	2015年8月13日
83	Norbert Tadeusz	1940-2011	ボイス教室、スキャンダラス、死体	http://www.ludwigmuseum.org/engl/exhibitions/retro_04/tadeusz_04.htm	2015年8月14日
84	Hans-Peter Feldmann	1941 (73)	政治的、ドイツ歴史、軽さと微妙なユーモア	http://frieze-magazin.de/archiv/features/euphorie-der-bilder/?lang=en	2015年8月14日
85	Markus Lüpertz	1941 (73)	新表現主義	ドイツ表現主義の世界、p.294	
86	Uwe Lausen	1941-1970	社会批判、暴力、皮肉、薬	http://db-artmag.com/en/59/feature/uwe-lausen-murder-in-the-living-room/	2015年8月14日
87	Sigmar Polke	1941-2010	皮肉、ボイス、冷笑的、ウィット	http://www.tate.org.uk/art/artists/sigmar-polke-2213	2015年8月14日
88	Michael Morgner	1942 (72)	反体制、死、恐怖	http://www.galerie-roepke.de/index.php?mod=kuenstler&action=details&id=8&page=1	2015年8月14日
89	Manfred Butzmann	1942 (72)	コルヴィッツ賞、ベルリン壁	http://www.berliner-zeitung.de/archiv/der-grafiker-manfred-butzmann-setzt-seine-rastlosen-exkursionen-im-muehlenhaupt-museum-bergsdorf-fort--mit-poesie-heimatkunde--nun-erst-	2015年8月14日

90	Michael Buthe	1944-1994	アナーキー、キッチュな作品	http://www.spiegel.de/kultur/gesellschaft/kitsch-kuenstler-buthe-bluetentraeume-eines-sonnenkoenigs-a-613627.html	2015年8月14日
91	Anselm Kiefer	1945 (69)	ナチ	ドイツ表現主義の世界、p.295	
92	Peter Angermann	1945 (69)	人類の愚かさ、事件の現場を描く、ボイス、社会批判、ユーモア	http://julianspalding.net/JS/Peter_Angermann.html	2015年8月14日
93	Jörg Immendorff	1945-2007	ボイス、皮肉、政治的社会的	http://www.goethe.de/kue/flm/prj/kub/bdk/en3933424.htm	2015年8月14日
94	Annegret Soltau	1946 (68)	フェミニスト	http://db-artmag.de/de/63/feature/die-fotokuenstlerin-annegret-soltau/	2015年8月14日
95	Georg Herold	1947 (67)	ユーモア、退廃、グロテスク	http://www.frieze.com/issue/review/georg-herold/	2015年8月14日
96	Gustav Kluge	1947 (67)	コルヴィッツ賞、恐怖、屈辱、奴隷、人間存在	https://www.kerberverlag.com/gustav_kluge/product-1891.html	2015年8月14日
97	Ulrike Müller	1947 (67)	芸術の政治的可能性、フェミニズム	http://www.brooklynmuseum.org/exhibitions/raw_cooked_muller/	2015年8月14日
98	Hans Peter Adamski	1947 (67)	新野獣派、遊び心、ユーモア	http://www.morgen-contemporary.com/index.php/lang-en/adamski-kuenstler/route-66/news	2015年8月14日
99	Isa Genzken	1948 (66)	個人で出来る政治活動	http://www.moca.org/pc/viewArtWork.php?id=79	2015年8月14日
100	Bernd Zimmer	1948 (66)	新野獣派	http://www.cannaviello.eu/index.php?sct=8&exhibid=70	2015年8月14日
101	Rainer Fetting	1949 (65)	新野獣派	ドイツ表現主義の世界、p.294	
102	Robert Hartmann	1949 (65)	ボイス、ダダ的パフォーマンス、遊び心	http://www.stadt-ratingen.de/freizeit_kultur_sport_tourismus/museum/sammlung/kunstweg/robert_hartmann.php	2015年8月14日
103	Norbert Schwontkowski	1949-2013	意味不明と超現実、ユーモア	http://www.art-magazin.de/szene/62857/norbert_schwontkowski_nachr	2015年8月14日
104	Felix Droese	1950 (64)	ボイス、ベトナム、ポーランド、アンネ・フランク、政治的	http://www.kettererkunst.de/bio/felix-droese-1950.shtml	2015年8月14日
105	Walter Libuda	1950 (64)	過剰	http://www.museum-junge-kunst.de/html/ra200708/libuda.htm	2015年8月14日
106	Astrid Klein	1951 (63)	コルヴィッツ賞、フェミニズム、政治的	http://www.contemporaryartdaily.com/2013/02/astrid-klein-at-spruth-magers/#more-73268	2015年8月14日
107	Elvira Bach	1951 (63)	新野獣派	http://www.kettererkunst.de/bio/ElviraBach-1951.php	2015年8月14日
108	Peter Bömmels	1951 (63)	新野獣派、ユーモア	http://www.danykellergalerie.de/archiv/P_Boemmels.ht	2015年8月14日
109	Stefan Szczesny	1951 (63)	新野獣派	http://www.zimbio.com/Stefan+Szczesny	2015年8月14日
110	Rosemarie Trockel	1952 (62)	ボイス、破壊的、フェミニズム	http://www.tate.org.uk/art/artists/rosemarie-trockel-2066	2015年8月14日
111	Cornelia Schleime	1953 (61)	反抗、フェミニスト	http://www.cornelia-schleime.de/c-s-texte-b%fchling-2003.html	2015年8月14日
112	Helmut Middendorf	1953 (61)	新野獣派	ドイツ表現主義の世界、p.294	
113	Nanne Meyer	1953 (61)	ヘッヒ賞、ユーモア、遊び心	http://www.smb.museum/en/exhibitions/detail/nanne-meyer-nichts-als-der-moment-zeichnungen.html	2015年8月14日
114	Thomas Palme	1953 (61)	ナンセンス	http://ny.voltashow.com/Thomas-Palme.5782.0.html	2015年8月14日
115	Hubertus Giebe	1953 (61)	政治的	http://www.dresdeneins.tv/gespraech/Hubertus_Giebe_%7C_Der_Maler-1683.html http://neue-saechsische-galerie.de/de/ausstellungen/rueckblick/2013/hubertus-giebe-farben-der-fruehe.html	2015年8月14日
116	Aribert von Ostrowski	1953 (61)	社会的な境界と芸術の関係	http://www.danykellergalerie.de/kuenstler/Ostrowski/Ostrowski_text.html	2015年8月14日
117	Martin Kippenberger	1953-1997	コルヴィッツ賞、ふざけた態度	http://www.moma.org/visit/calendar/exhibitions/298	2015年8月14日
118	Thomas Schütte	1954 (60)	風刺	http://www.kunstmuseumluzern.ch/ausstellungen/thomas-schuette-houses/	2015年8月14日
119	Albert Oehlen	1954 (60)	新野獣派、残忍、破損	http://www.saatchigallery.com/artists/albert_oehlen.ht	2015年8月14日
120	Walter Dahn	1954 (60)	新野獣派、ユニーク	http://venusovermanhattan.com/exhibition/walter-dahn-richard-prince/	2015年8月14日
121	Werner Büttner	1954 (60)	新野獣派、キッペンバーガー企画に参加	http://www.hfbk-hamburg.de/de/hochschule/namenregister/?tx_member_pi1%5Bview%5D=single&tx_member_pi1%5Buid%5D=8&cHash=9215c64d734aa8d8ab3e394dcbb9705d	2015年8月14日
122	Michael Krebber	1954 (60)	パロディ、皮肉、ユーモア	http://www.textezurkunst.de/79/eine-dosis-gefuhl/	2015年8月14日
123	Salomé	1954 (60)	新野獣派	ドイツ表現主義の世界、p.294	
124	Holger Bunk	1954 (60)	皮肉	http://www.eart.de/eigen/displayartist.cfm?ArtistID=21	2015年8月14日
125	Hans-Jörg Mayer	1955 (59)	ジェンダー、エディプス、資本主義、ふざけ	http://www.contemporaryartdaily.com/2013/11/hans-jorg-mayer-at-christine-mayer-2/	2015年8月14日
126	Andreas Schulze	1955 (59)	芸術と生活の境界、シュビッタース、ボイス	http://www.frieze.com/issue/review/adreas-schulze/	2015年8月14日
127	Margret Eicher	1955 (59)	皮肉な時代錯誤、いたずら	http://kulturportal-rn.de/seite/eicher-margret/	2015年8月15日
128	Markus Oehlen	1956 (58)	新野獣派	http://www.galerie-supper.de/markus-oehlen.html	2015年8月15日
129	Thomas Kilpper	1956 (58)	政治的介入者	http://www.tate.org.uk/art/artworks/kilpper-the-ring-the-dance-of-death-p78554/text-summary	2015年8月15日

130	Ralf Kerbach	1956 (58)	ドイツ情報化社会をイメージ	http://www.hfbk-dresden.de/studium/studium/lehrende/fakultaet-1/prof-ralf-kerbach/	2015年8月15日
131	Stephan Balkenhol	1957 (57)	平均で平凡、感情を誇示しないユーモア	http://rogallery.com/Balkenhol_Stephan/balkenhol-biography.html	2015年8月15日
132	Rosa Loy	1958 (56)	ライプツィヒ、皮肉	http://www.frieze.com/issue/review/rosa_loy/	2015年8月15日
133	Ulf Puder	1958 (56)	ライプツィヒ、社会の混乱と絶望	http://www.marcstraus.com/artists/ulf-puder/	2015年8月15日
134	Cony Theis	1958 (56)	戦争、ユーモア、メメントモリ	http://hengevossduerkop.de/galerie/?p=327	2015年8月15日
135	Martin Assig	1959 (55)	コルヴィッツ賞、身体上の強迫観念	http://www.fondationdfguerlain.com/martin_assigd.html	2015年8月15日
136	Christian Lemmerz	1959 (55)	死と堕落、冒涜とキッチュの要素	http://www.brandstrup.no/artists/christian-lemmerz	2015年8月15日
137	Neo Rauch	1960 (54)	ライプツィヒ	http://www.artinamericamagazine.com/news-features/magazine/neo-rauch/	2015年8月15日
138	Heribert C. Ottersbach	1960 (54)	皮肉	http://www.hatjecantz.de/heribert-c-ottersbach-2100-1.html	2015年8月15日
139	Mark Lammert	1960 (54)	コルヴィッツ賞、ドイツ歴史	http://www.tip-berlin.de/kultur-und-freizeit/der-buhnenbildner-mark-lammert	2015年8月15日
140	Matthias Dornfeld	1960 (54)	表現主義のテクニック	http://www.contemporaryartdaily.com/2009/12/matthias-dornfeld-at-harris-lieberman/#more-9429	2015年8月15日
141	Dagmar Varady	1961 (53)	現実の重力から脱出するために再マッピング	https://www.kerberverlag.com/en/contemporary_art/dagmar_varady/product-402.html	2015年8月15日
142	Daniel Richter	1962 (52)	ディックス賞、ドイツ歴史	http://www.saatchigallery.com/artists/daniel_richter.ht	2015年8月15日
143	Eran Schaerf	1962 (52)	コルヴィッツ賞、歴史と現在の政治	http://www.schauort.com/eran-schaerf.htm	2015年8月15日
144	Felix Gmelin	1962 (52)	性の解放、赤旗、公共スペース	http://www.saatchigallery.com/artists/felix_gmelin.htm	2015年8月15日
145	Jürgen Stollhans	1962 (52)	遊び心、皮肉、社会政治への接続	http://www.dortmunder-u.de/veranstaltung/juergen-stollhans	2015年8月15日
146	Thitz	1962 (52)	バックアートプロジェクト、バックはグローバル化した世界の象徴	http://www.secorvo.de/unternehmen/thitz/thitz.php	2015年8月15日
147	Anke Doberauer	1962 (52)	社会科学、皮肉とユーモア、社会的アイデンティティ、ジェンダー	http://www.goethe.de/ges/prj/res/mag/int/de13448369.htm	2015年8月15日
148	Susan Hefuna	1962 (52)	フェミニスト、育ったエジプトとの距離感、場所とアイデンティティの交差点	https://www.brooklynmuseum.org/eascfa/feminist_art_base/susan-hefuna	2015年8月15日
149	Andy Hope 1930	1963 (51)	ヨーロッパの暗い歴史	http://www.charlesrivacollection.com/index.php?act=artist&id=9	2015年8月15日
150	Florian Süssmayr	1963 (51)	パンク、非モチーフ、変態に興味	http://www.zeit.de/2007/30/FLORIAN_SUeSSMAYR	2015年8月15日
151	Korpys & Löffler	1963/1966	原発反対、政治的なイベント	http://artaddict.net/events/download_press_release/1971	2015年8月15日
152	Corinne Wasmuht	1964 (50)	コルヴィッツ賞、ユニーク	http://www.saatchigallery.com/artists/corinne_wasmuht.htm	2015年8月15日
153	Moritz Götze	1964 (50)	生存の問題、パロディ、アナーキー、植民地	http://www.rothamel.de/de/Moritz-Goetze/Texte-ueber-Moritz-Goetze.html	2015年8月15日
154	Simon Wachsmuth	1964 (50)	欧州から見たペルシャ、政治的な問題、歴史的な事実	http://www.monopol-magazin.de/kalender/termin/20105601/galerie-im-taxispalais/AporiaEuropa.html	2015年8月15日
155	Birgit Brenner	1964 (50)	日常生活、社会不安、高齢化、対人関係	http://www.zeit.de/2008/10/Atelier-Brenner-07	2015年8月15日
156	Thomas Eller	1964 (50)	コルヴィッツ賞、破滅、戦争	http://www.thomaseller.com/DeOliveira-Oxley.pdf	2015年8月15日
157	Antje Dorn	1964 (50)	ウィット、アナーキー、公共イメージ、コンテンツの喪失	http://www.ruhrnachrichten.de/staedte/bochum/Ueberraschende-Kombination-Antje-Dorn-und-Fran%E7ois-Perrodin-in-der-Galerie-m;art932,2432449	2015年8月15日
158	John Bock	1965 (49)	不条理	http://www.vogue.de/people-kultur/kultur-tipps/ausstellung-john-bock-bei-sprueth-magers	2015年8月15日
159	Johannes Kahrs	1965 (49)	政治、宗教、被験者、吐き気、情緒不安定、フィティッシュ観点	http://www.theater-medien.de/reden-ueber-kunst-johannes-kahrs-tropical-nights/	2015年8月15日
160	Cornelius Völker	1965 (49)	ユーモア、皮肉、陳腐、恐怖魅力、グロテスク	http://www.hosfeltgallery.com/index.php?p=artists&a=Cornelius%20Volker	2015年8月15日
161	Marc Brandenburg	1965 (49)	ネオナチ、ホームレス、フリーガンモチーフ	http://ropac.net/artist/marc-brandenburg	2015年8月15日
162	Dierk Schmidt	1965 (49)	歴史画を拡張するテーマ、ユーモア	http://www.documenta12.de/index.php?id=1215	2015年8月15日
163	Martin Dammann	1965 (49)	世界大戦モチーフ	http://www.goethe.de/ins/gb/lp/prj/mtg/men/kun/dam/deindex.htm	2015年8月15日
164	Johannes Spehr	1965 (49)	西洋社会に批判的、アナーキー	http://www.artnews.org/thomasrehbein/?exi=15943&Thomas_Rehbein&Johannes_Spehr_Die_Revolution_findet_nicht_statt_	2015年8月15日

165	Bea Emsbach	1965 (49)	保護されていないテーマ、人間性、対人関係、暴力	http://erhard-metz.de/2013/05/25/marielies-hess-kunstpreis-2013-an-bea-emsbach/	2015年8月15日
166	Inken Reinert	1965 (49)	社会主義モダニズムの遺産	http://www.modernempire.co.uk/inkenreinert.html	2015年8月15日
167	Eva von Platen	1965 (49)	不条理、底に落ちるまで	http://www.wienlukatsch.de/artist.php?artist=19	2015年8月15日
168	Tobias Rehberger	1966 (48)	ディックス賞、相互作用、不条理	http://www.artspace.com/tobias_rehberger	2015年8月15日
169	Thomas Zipp	1966 (48)	西欧文明の成果→狂人	http://www.frieze.com/issue/review/thomas_zipp/	2015年8月15日
170	Amelie von Wulffen	1966 (48)	世界大戦モチーフ、ベックマン影響	http://www.contemporaryartdaily.com/2014/01/amelie-von-wulffen-at-portikus/#more-105025	2015年8月15日
171	Kai Althoff	1966 (48)	不条理、ユーモア、悪人の架空の社会、ゲルマン民族	http://www.saatchigallery.com/artists/kai_althoff.htm	2015年8月15日
172	Heike Kati Barath	1966 (48)	ユーモア、遊び心、B級ホラー映画	http://www.monopol-magazin.de/kalender/termin/201016362/wuppertal/von-der-heydt-kunsthalle/Heike-Kati-Barath.html	2015年8月15日
173	Kerstin Kartscher	1966 (48)	二次大戦素材	http://www.frieze.com/issue/review/kerstin_kartscher/	2015年8月15日
174	Maria Bussmann	1966 (48)	ハイデッガー、メルロポンティ、ユダヤ、皮肉	http://www.brooklynrail.org/2007/02/artseen/tracks-feb-2007	2015年8月15日
175	Stefan Hirsig	1966 (48)	遊び心	http://www.primaenoctis.com/portal/EN/handle/?hil&page=exhibition-view&reference=hirsig	2015年8月15日
176	Peter Stauss	1966 (48)	革命家、ヒッピー、組み合わせ、不条理と不吉	http://www.tagesspiegel.de/kultur/peter-stauss-in-der-galerie-heldart-apokalypse-wau/10282452.html	2015年8月15日
177	Cornelia Renz	1966 (48)	女性の権限、ロリータ、不穏、ユーモラス	http://www.re-title.com/artists/Cornelia-Renz.asp	2015年8月15日
178	Jim Avignon	1966 (48)	ユーモア	http://www.artberlin.de/kuenstler/jim-avignon/	2015年8月15日
179	Aris Kalaizis	1966 (48)	ライプツィヒ	http://www.drentsmuseum.nl/storage/nieuwsbrief/persbericht-wunderbar-van-aris-kalaizis.html	2015年8月15日
180	Johannes Wohnseifer	1967 (47)	ドイツの歴史、不条理、破壊的	http://www.saatchigallery.com/artists/johannes_wohnseifer.htm	2015年8月15日
181	Anja Schrey	1967 (47)	女性のアイデンティティ	http://www.gfsk-sb.de/fileadmin/GFSK/Unsere_Art/Zeitung0107.pdf#search='Anja+Schrey'	2015年8月15日
182	Endy Hupperich	1967 (47)	遊び心、皮肉、ユーモア、不合理な組み合わせ	http://www.endy-hupperich.com/index.php/de/presse/141-bilderwelt-von-2008	2015年8月15日
183	Antje Blumenstein	1967 (47)	宗教と社会の緊張、倫理や道徳の崩壊、キッチュ、遊び心	http://www.monopol-magazin.de/kalender/termin/20106377/galerie-martin-mertens/Erik-Andersen-Antje-Blumenstein-Hanna-Nitsch-Miriam-Vlaming-Steffi-Weigel-Santiago-Ydez-480859-N-113342-E.html	2015年8月15日
184	Erik Schmidt	1968 (46)	ブルジョア芸術家の悲劇的な図	http://www.erikschmidt.info/texts/heimatfilme-ohne-heimat-dtengl.html	2015年8月15日
185	Antje Majewski	1968 (46)	フェミニズム	http://www.sternberg-press.com/index.php?pageId=1231&bookId=126&l=en	2015年8月15日
186	Katharina Wulff	1968 (46)	奇妙、不安、コミック、ヒステリック、気まぐれ	http://www.frieze.com/issue/review/katharina-wulff/	2015年8月15日
187	Christian Frosch	1968 (46)	ボイスの誰もが芸術家引用	http://www.christian-frosch.de/index.php?p=text&tid=11&lang=d	2015年8月15日
188	Jens Ullrich	1968 (46)	市民の政治的な抗議·運動についての芸術家、ファシスト、オリンピックスタジアム	http://thelast-magazine.com/new-work-jens-ullrich/	2015年8月15日
189	Römer + Römer	1968/1978	多文化共生、地球規模の問題、政治的社会的	http://www.roemerandroemer.com/text_tereza_de_arruda.html	2015年8月15日
190	Jonas Burgert	1969 (45)	グロテスク、不条理、闘争心の表現、内部闘争、西洋文化への問題提起	http://www.blainsouthern.com/artists/jonas-burgert	2015年8月15日
191	Kota Ezawa	1969 (45)	大衆文化歴史政治から画像を再加工、世界のショーの不気味な描写、ケネディ暗殺など	http://articles.latimes.com/2014/feb/06/entertainment/la-et-cm-review-kota-ezawa-at-christopher-grimes-20140203	2015年8月15日
192	Jonathan Meese	1970 (44)	陳腐、不良、古典的な表現主義に不安が追加、ドイツの暗い過去を演じる、不条理、ヒトラー、グロテスク	http://www.artinamericamagazine.com/news-features/magazine/jonathan-meese/	2015年8月15日
193	Norbert Bisky	1970 (44)	社会主義リアリズムを想起、ホモ、エロ、暴力、終末的、キッチュ	http://www.zeit.de/kultur/kunst/2011-01/norbert-bisky	2015年8月15日
194	Katrin Plavcak	1970 (44)	政治的社会的、人間との新しい物語のために地球外の要素定着、政治的当てつけオントロジー	http://www.essl.museum/sammlung/kuenstler/person?article_id=1364874376486	2015年8月15日

195	Tatjana Doll	1970 (44)	政治的社会的、フェラーリ、ミッキー、不確実性記憶の嘘、有害化学物質	http://www.artberlin.de/tatjana-doll-malerin/	2015年8月15日
196	Henning Kles	1970 (44)	皮肉、ユニーク	http://www.undo.net/it/mostra/115726	2015年8月15日
197	Christian Brandl	1970 (44)	ライプツィヒ、不安定	http://heikemoras.com/christian-brandl/	2015年8月15日
198	Martin Neumaier	1970 (44)	ヨーロッパ植民地、帝国主義テーマ	http://galeriekaierdmann.de/power/index.php?/upcoming-galerie/martin-neumaier/	2015年8月15日
199	Tim Eitel	1971 (43)	ライプツィヒ、ホームレスの肖像画、暗い、ゴミ袋	http://www.essl.museum/en/exhibitions/exhibition?article_id=1365977934020&event_id=1368177007324	2015年8月15日
200	David Schnell	1971 (43)	ライプツィヒ、ユニーク、不合理	http://www.hatjecantz.de/david-schnell-2054-1.html	2015年8月15日
201	Miriam Vlaming	1971 (43)	ライプツィヒ、日常の恐怖	http://westzeit.de/kunst/index.html?id=147	2015年8月15日
202	Eckart Hahn	1971 (43)	不気味、ユーモラス	http://chasseurmagazine.com/2013/06/30/chasseur-interviews-artist-eckart-hahn/#	2015年8月15日
203	Till Gerhard	1971 (43)	恍惚、堕落の不気味、崇高、60年代カウンターカルチャー、宗教的社会コミューンを思わせる	http://www.brooklynrail.org/2006/06/artseen/gerhard	2015年8月15日
204	Markus Willeke	1971 (43)	奇妙な漫画のキャラクター、サブカル、グラフィティ、ユニーク	http://hengesbach-gallery.com/wp/gallery/markus-willeke/	2015年8月15日
205	Christoph Ruckhäberle	1972 (42)	ライプツィヒ、社会主義リアリズム	http://www.nytimes.com/2013/10/25/arts/design/christoph-ruckhaberle-fruhstuck-im-freien.html?_r=0	2015年8月15日
206	Tilo Baumgärtel	1972 (42)	ライプツィヒ、奇妙、不条理	http://www.galeriekleindienst.de/kuenstler,tilo_baumgaertel,45.html	2015年8月15日
207	Armin Boehm	1972 (42)	現実と狂気の境界、沈黙、秘密結社	http://www.neromagazine.it/n/?p=4718	2015年8月15日
208	Andrea Büttner	1972 (42)	富と貧困、社会学、女性アーティスト問題	http://www.tate.org.uk/whats-on/tate-britain/display/bp-spotlight-andrea-buttner	2015年8月15日
209	Katrin Heichel	1972 (42)	ライプツィヒ	http://thierrygoldberg.com/katrin_heichel/pure_love/	2015年8月15日
210	Tom Fabritius	1972 (42)	ライプツィヒ	http://www.galeriekampl.com/startseite/tom-fabritius/presse/	2015年8月15日
211	Tine Furler	1972 (42)	フェミニズム、ユニークなポーズ	http://www.haah.de/deutsch/tine_furler/texte/furlerwolfer.html	2015年8月15日
212	Andrea Bender	1972 (42)	ライプツィヒ、アナーキー	http://www.galerie-tedden.de/katalog_wien_bender/6_7.html	2015年8月15日
213	René Luckhardt	1972 (42)	ドイツ文化を感じる暗い南部、ドイツの感触	http://www.contemporaryartdaily.com/2009/01/rene-luckhardt-at-bernd-kugler/#more-2766	2015年8月15日
214	André Butzer	1973 (41)	表現主義的、パロディ、漫画、暗い歴史のエコー	http://frieze-magazin.de/archiv/kritik/andre-butzer/	2015年8月15日
215	Matthias Weischer	1973 (41)	ライプツィヒ、統合失調症	http://www.frieze.com/issue/review/matthias_weischer	2015年8月15日
216	Tjorg Douglas Beer	1973 (41)	ブラックユーモア、子供の心理的トラウマを描く	http://artnews.org/produzentengaleriehamburg/?exi=38628	2015年8月15日
217	Martin Kobe	1973 (41)	ライプツィヒ、不合理	http://artnews.org/martinkobe/?s=3	2015年8月15日
218	Marc Gröszer	1973 (41)	フェミニズム、暴力、肉欲、アナキズム	http://galerie-franzkowiak.de/zitat-marc-groeszer/	2015年8月15日
219	Robert Klümpen	1973 (41)	皮肉、歴史全体テーマ	http://www.krsq.de/de/bildendekunst/2012/Kluempen_MehrLicht.php	2015年8月15日
220	Jürgen von Dückerhoff	1973 (41)	イメンドルフ、サイケデリック、グロテスク	http://www.artist-kunstmagazin.de/?show=ausgabe&id=96&did=492&typ=text	2015年8月15日
221	Ulla von Brandenburg	1974 (40)	社会的歴史的な問題に対処、文化史、ゲーム、鏡と影	http://www.secession.at/art/2013_brandenburg_d.html	2015年8月15日
222	Friedrich Kunath	1974 (40)	人間の条件の普遍的テーマ、ドイツロマン主義含む風刺、漫画、皮肉と荒廃、不条理	http://hammer.ucla.edu/exhibitions/2010/hammer-projects-friedrich-kunath/	2015年8月15日
223	Uwe Henneken	1974 (40)	ロマン主義と表現主義、キッチュ、グロテスク	http://www.contemporaryartdaily.com/2010/07/uwe-henneken-at-kunstverein-braunschweig/	2015年8月15日
224	Markus Selg	1974 (40)	破壊や復活など人権テーマ、表現主義	http://www.saatchigallery.com/artists/markus_selg.htm?section_name=artists_germany	2015年8月15日
225	Cornelius Quabeck	1974 (40)	批判とユーモア、絶滅した動物モチーフ、陳腐、パロディ	http://galerie.samuelis-baumgarte.com/en/artists/Artist/show/quabeck/	2015年8月15日
226	Abel Auer	1974 (40)	ドイツ美術、英雄キッチュ、非現実的な色、奇妙な形や歪んだ視点	http://momaps1.org/exhibitions/view/138	2015年8月15日
227	Martina Sauter	1974 (40)	ユーモア、フィクションと現実の関係、テレビ画面の静止画の写真を別々	http://dailyserving.com/2010/10/martina-sauter-shapely-shadows-and-a-new-apartment/	2015年8月15日
228	Stephan Mörsch	1974 (40)	核ストライキ	http://www.burg-halle.de/hochschule/einrichtungen/burg-gestaltet/aktuelles/details/a/buzz-mit-stephan-moersch.html	2015年8月15日

229	Martin Mannig	1974 (40)	穏やかな皮肉、面白いゲーム、バランスが崩れる、ベイダー、セックスレスのテディベア	http://www.kunst-termine.com/Detailed/Deutschland/Sachsen/Dresden_MARTIN_MANNIG_looking_glass_world_900.php	2015年8月15日
230	Jörg Ernert	1974 (40)	ライプツィヒ	http://www.globalgalleryguide.com/exhibitions/391/jrg-ernert-nachbilder	2015年8月15日
231	Nasan Tur	1974 (40)	落書き、社会的、参加型	http://www.blainsouthern.com/exhibitions/2013/nasantur_atyourown	2015年8月15日
232	Sophie von Hellermann	1975 (39)	不条理、暗い歴史、政治的審判の日、善と悪の問題、ヒステリック	http://www.contemporaryartdaily.com/2014/01/sophie-von-hellerman-at-greene-naftali/	2015年8月15日
233	Matthias Bitzer	1975 (39)	オットーディクス	http://veranstaltungen.toubiz.de/albstadt/default/event.php?idd=3094763	2015年8月15日
234	Birgit Megerle	1975 (39)	フェミニズム、不気味	http://thisandthatlab.com/news/meet-birgit-megerle	2015年8月15日
235	Paule Hammer	1975 (39)	ライプツィヒ、政治的	http://www.ladenfuernichts.de/kuenstler/paule-	2015年8月15日
236	Andrea Lehmann	1975 (39)	微妙なユーモア、科学と社会の歴史を取り込む、陰鬱、残酷	https://www.kerberverlag.com/en/contemporary_art/andrea_lehmann/product-2910.html	2015年8月15日
237	Lutz Braun	1976 (38)	破滅的な夢、奇妙でユーモラス	http://nagel-draxler.de/exhibitions/memento-mio/	2015年8月15日
238	Alex Tennigkeit	1976 (38)	歴史と融合、死、暴力、皮肉を通して表現	http://www.monopol-magazin.de/kalender/termin/201010870/berlin/galerie-jette-rudolph/Alex-Tennigkeit-A-Hint-of-	2015年8月15日
239	Julia Schmidt	1976 (38)	ライプツィヒ	http://caseykaplangallery.com/wp/wp-content/uploads/2012/06/Schmidt-Press-Kit.e-copy.pdf	2015年8月15日
240	Franka Kaßner	1976 (38)	独裁システムの中での両親の役割、社会主義、民族主義	http://www.kirchen.net/dommuseum/page.asp?id=19705	2015年8月15日
241	Daniel Sinsel	1976 (38)	エロ面白い、性的シンボル	http://www.frieze.com/issue/article/hide-seek/	2015年8月15日
242	Lea Asja Pagenkemper	1976 (38)	落書き、相手の領土境界を設定	http://www.akinci.nl/Pagenkemper/lea_asja_pagenkemper.htm	2015年8月15日
243	Jorinde Voigt	1977 (37)	ディクス賞、遊び心	http://artforum.com/index.php?pn=picks&id=47112&view=print	2015年8月15日
244	Jan Brokof	1977 (37)	ディクス賞、社会問題	http://www.museum-folkwang.de/de/ausstellungen/archiv/jan-brokof.html	2015年8月15日
245	Henriette Grahnert	1977 (37)	キッペンバーガーらへの皮肉	http://www.galeriekleindienst.de/kuenstler,henriette_grahnert,120.html	2015年8月15日
246	Lucie Stahl	1977 (37)	社会主義リアリズム、ユーモア、ヒステリー	http://www.frieze.com/issue/review/lucie-stahl/	2015年8月15日
247	Tobias Buche	1978 (36)	政治的なデモの写真はそのまま個人的な写真へ、ハリウッドも全て等価	http://cgi.klosterfelde.de/user-cgi-bin/artists/?s1=Tobias+Buche&s2=02-text	2015年8月15日
248	Moritz Schleime	1978 (36)	東ベルリン、ユーモア	http://larmgalleri.dk/artists/moritz-schleime/	2015年8月15日
249	Hank Schmidt in der Beek	1978 (36)	組み合わせによる独自のユーモア	http://www.gallerytalk.net/2013/05/ein-bisschen-friede-in-da-concrete-jungle-hank-schmidt-in-der-beek-macht-altes-rot-gelb-gruen-und-ein-sattes-reggae-album.html	2015年8月15日
250	Sebastian Gögel	1978 (36)	イメンドルフ影響、ユーモア、アナキズム、不条理	http://www.kunst-focus.de/sebastian-goegel.html	2015年8月15日
251	Kati Heck	1979 (35)	ポストフェミニスト、ドラマと皮肉	http://www.timvanlaeregallery.com/exhibitions/press/78	2015年8月15日
252	Nikolas Gambaroff	1979 (35)	社会的な権力闘争	http://www.contemporaryartdaily.com/2014/06/nikolas-gambaroff-at-meyer-kainer/#more-117681	2015年8月15日
253	David Lieske	1979 (35)	政治的な問題	http://www.frieze.com/issue/review/david-lieske/	2015年8月15日
254	Christof Mascher	1979 (35)	ボイス、矛盾、表現主義	http://artdaily.com/news/40773/New-Works-by-Christof-Mascher-at-Galerie-Michael-Janssen#.Vc695kt1ZnU	2015年8月15日
255	Dennis Rudolph	1979 (35)	ヨーロッパに未来はない、境界をマークする、古い写真から引用	http://artnews.org/artist.php?i=337&a=text	2015年8月15日
256	Peter Wächtler	1979 (35)	ドライ、ユーモア、死、飲酒	http://frieze-magazin.de/archiv/features/peter-waechtler/	2015年8月15日
257	Grit Hachmeister	1979 (35)	ジェンダー、奇妙、ユーモア	http://www.art-in.de/incgal2.php?id=1754	2015年8月15日
258	Michael Wutz	1979 (35)	ヒトラー、ゲルマニア	http://www.aurelscheibler.com/files/documents/artists/press_infos_de/wutz_tales_pr.pdf	2015年8月15日
259	Ellen Gronemeyer	1979 (35)	グロテスク、笑い、うんざり	http://curatorsintl.org/images/assets/Ellen_Gronemeyer_low.pdf#search='Ellen+Gronemeyer'	2015年8月15日
260	Stefan Marx	1979 (35)	皮肉、日常と芸術のギャップ	http://www.hafenrand.com/kuenstler-artists/stefan-marx/	2015年8月15日
261	Lars Teichmann	1980 (34)	ユニークな翻訳	http://www.dahsemagazine.com/interview-with-berlin-artist-lars-teichmann/	2015年8月15日
262	Florian Meisenberg	1980 (34)	民主主義、一夫一妻制	http://www.vogtgallery.com/files/flme-press.pdf	2015年8月15日

263	Stefanie Gutheil	1980 (34)	ベックマン、アンソール、キルヒナー、モンスター、女性問題	http://www.mikeweissgallery.com/artist/Stefanie_Gutheil/biography/	2015年8月15日
264	Johannes Rochhausen	1981 (33)	ライプツィヒ	http://www.iscp-nyc.org/artists/alumni-profiles/1101/1052.html	2015年8月15日
265	Peter Feiler	1981 (33)	政治的人格、ウィットと恐怖	http://www.parrotta.de/artists/peter-feiler/text.shtml	2015年8月15日
266	Ian Tweedy	1982 (32)	ヒトラー	http://artforum.com/index.php?pn=picks&id=44958&view=print	2015年8月15日
267	Sebastian Nebe	1982 (32)	新ライプツィヒ	http://sammlung-klein.de/die_sammlung/kuenstler/sebastian_nebe/	2015年8月15日
268	Artists Anonymous	不明	反転カラー写真、男性女性、飢餓、ボイス参加型引用	http://jonathanlevinegallery.com/?method=Exhibit.ExhibitDescriptionPast&ExhibitID=4EB025FE-C002-589F-300D1818644D2626	2015年8月15日

このように見ると、如何に表現主義から続く、具象でありながら、皮肉で激しく独自に進化した絵画が多くあるのかを理解することができる。

4. 退廃芸術の39.3％と全体の39.5％という数字

今回調査して明らかとなった、退廃芸術の割合である、39.3％と全体の皮肉、ユーモア、政治的社会的作家の割合である39.5％はほぼ同数字である。また、絵画の皮肉、ユーモア、政治的社会的作家の割合が39.8％であるがこれもほぼ同数字でどの時代にかかわらず、また分野にかかわらずコンスタントに約4割の皮肉、ユーモア、政治的社会的作家がいることがわかる。いつの時代でもいると考えれば話は早いが、ここでは少し深読みして考えてみたい。今回サンプル数が少なかったために日本と比較することができなかったが、日本にここまで、皮肉やユーモア、政治的社会的作家が多いとは思えない。ここまでドイツが多い理由について、戦後ドイツでは複数の退廃芸術を振り返る展覧会を行うなど、社会の努力によって多くなっているのではなかろうか？　戦前に迫害された作家を大切にした割合で、現在も推移していると考えることもできるのではなかろうか？　このような問を今回複数の人にインタビューを行ったので、紹介したい。インタビュー記録は、通訳の言葉をそのまま書き起こしている。まず、著名な美術館であるMuseum Kunstpalastの学芸員、Dr. Bettina Baumgärtel氏の言葉を紹介する。インタビューは2014年10月8日に、Museum Kunstpalastの学芸員室で行った。表現主義以前のデュッセルドルフスクールオブペインティングにどれくらい、皮肉、ユーモア、政治的社会的作家がいたのかを質問した。なぜなら、デュッセルドルフスクールオブペインティングに皮肉、ユーモア、政治的社会的作家が少なければ、戦後の努力で増えたと考えられるかもしれないと思ったからである。デュッセルドルフスクールオブペインティングとは、1819年から1918年の間、デュッセルドルフアカデミーを中心に4千人の作家がいたとされ、アメリカにも影響を与えた動きである[18]。そのデュッセルドルフスクールオブペインティングについてDr. Bettina Baumgärtel氏の発言である。

1819年から1918年の間、最初の作家たちは全く政治と関係ないですが、後の方の

作家たちは、全部で 40％近い作家たちが政治的な意味合いを持った作家であることもあり得ると思います。(中略) マラカステンという小さな集まりがありますがそこでいくらかの芸術家たち前衛的な芸術家たち総合芸術の様な感じで絵画と音楽と詩と演劇と衣装というものを全て統一して紹介した展示会がありました。芸術家の集まりがありますがアカデミーの外で千人くらいはいますが、その芸術家たちが個人的に、団体というかつくってその中心になっているのがマラカステン。アソシエーション。漫画的な絵画を描いたり、ここで先ほどいいました総合的な芸術、全てを一緒にここで集めて紹介した。ここではユーモアが花開いている。自由が象徴されている。この集まりの大切なことは、みんなで集まって社交的で楽しく過ごすことでした。(中略) カントやヘーゲルやそういう哲学者の自由主義的な考え方の影響を非常に受けている。

よって、デュッセルドルフスクールオブペインティングにも、多くの皮肉、ユーモア、政治的社会的作家がいたことを理解できたので、表現主義以前から多くいたことがインタビューにより明らかとなった。

次にデュッセルドルフクンストアカデミーでボイスと活動を共にした美術家であり、今回の絵画の 268 人の一人にも入っている Felix Droese（1950-）氏のインタビューを紹介する。彼は約 2 時間、ドイツ芸術について話した。インタビューは 2014 年 10 月 22 日に彼のアトリエで行った。彼を仲介した日本の作家、井上廣子氏も同席している。ドイツの皮肉やユーモア、政治的社会的傾向の作家が多いことについて述べられている。

ヒトラーの時代があったおかげで、その後、第二次大戦後にはアーティストたちは切実にそうではない芸術をしたいという気持ちを強くした。(中略) 1945 年にドイツでは Stunde Null という言葉で言っていましたがゼロという言葉が出来て、右でもない、左でもないゼロという再スタートがあった。それで真空状態の中でアーティストは真空状態になったからこそもっとまた自由に動けるようになった。ドイツの場合、真空状態になってその実験が起こりやすい土壌になっていた。パリだったらエコールドパリをしていれば良いという感じ、アメリカだったら抽象表現主義で個人の自由の表現をして。ドイツの場合はそれよりももっと根が深かった。ドイツは伝統が壊された。例えば日本でいうと広島で原爆がありましたがそれが芸術上でドイツに起こったと想像してもらったら解ると思います。(中略) ドイツは何が芸術か、芸術の概念について、多分世界中で一番激しくディスカッションが行われた国だと思います。(中略) 個人がすることは全てが社会と関係がある。社会と自分は違うものではなく、個人個人全ての人が社会と関わっている。ヘーゲルが書いた本があり、その本とドイツ人は関係しているのではと思っている。(中略) ドイツでは特に強く自分で思考することがとても強く抑圧された時代がありました。だからこそ爆発した。そして、上からこのように考えなさい、このようにしなさいというのは受け入れられない。でしかもそれは社会

に認められました。どういうことかというと社会が認めたと言うことは今からお話しするドイツの美術史に関係が出ている。19 世紀終わり 20 世紀始めにドイツには特別な社会的形を持った芸術が生まれました。Künstlerverein（「作家協会」の意。以後、キュンストラーフェアアイン）というお金を持った普通の市民とアーティストが一緒になって、組織を作りましたが、キュンストラーフェアアインという組織自体はドイツ以外のどこの国にも見ることが出来ません。ドイツの各市にキュンストラーフェアアインというのはあります。デュッセルは特に大きい。このキュンストラーフェアアインという中でとても重要で意味のあることはコマーシャルな美術に重きを置いていないということです。パリにはサロンというものがありました。パリのサロンの仕方とは全く違います。そこではやはりアーティストは作品を売りたい、売る目的でサロンに展示します。そういうものではありません。キュンストラーフェアアインとは学校のような感じです。アソシエーション。芸術に興味のある市民が来たり、作家も来て話をしたりする感じです。世界大戦後に特に活発になった。キュンストラーフェアアインは国家とも何何党とかの政治の党とも関係ない自由なアソシエーションで、特に世界大戦後に盛んになった。（中略）キュンストラーフェアアインでは私に限らずアーティストは自由に話して良い。教養があるかどうかは置いておいて。それはとても面白いと思います。それはデモクラシーと関係があります。政党とか、天皇とか、王様とかに頼まれてとかではなく、アーティストが自分たちでオーガナイズする。このキュンストラーフェアアインの存在も多くのドイツの作家がランキングに入っていたのと関係があると思う。

戦争ですべてが破壊された後、芸術の概念について、世界中で一番激しくディスカッションしたという作家の発言には大変重たいものがある。そして、ヘーゲルの存在とキュンストラーフェアアインへと続くが、キュンストラーフェアアインとベッティーナが述べたマラカステンは、同じ意味であり、その存在の大きさも理解できた。

次に、Kunstraum Düsseldorf という公立の画廊のオーガナイザーである Michael Jonas 氏のインタビューを紹介する。インタビューは 2014 年 10 月 23 日に、Kunstraum Düsseldorf で行った。

詫摩：私はドイツの作家 1414 人を一人一人調べました。すると表現主義や政治的社会的、ユーモア、皮肉な作家と判断できる作家が 558 人となりました。割合にすると 39.5％です。この値はとても大きいと思いますが、どう思いますか？

Jonas：私の観察からすると 2 つの大きな流れがあると思う。一つはすごくまじめなで悲劇的で重たいテーマを扱っている。もう一つがどちらかというとライト、軽いテーマを扱っているという二つあると思う。一つこのような言葉がある。ユーモアというのは絶望の礼儀ただしさ。どういうことかと言うと、作家の人は不満足なことをアイ

ロニー的にくるんで見せるようなことをすると思います。それは古代から例があると思います。悲劇、喜劇の劇がありますよね。それが、私が先ほど二つに分けられると言ったことと似ていると思います。（中略）

詫摩：そのような悲劇的、喜劇的を重視している作家がドイツには例えばアメリカより多いということでしょうね。

Jonas：アメリカに比べたら絶対に多いと思います。

詫摩：私もそこがドイツの面白いところだと思っています。

Jonas：フランクフルト派の次の世代、アドルノ、ベンヤミン、ハーバーマスの哲学者たちが言うにはアイロニーが一番の強い武器である。暴力を使わずに抵抗することが出来る一番強い武器がアイロニーである。

詫摩：ドイツの作家はそういうことを習わなくても染み付いている人が多いのでしょうね。

Jonas：私の世代のアーティストは特にヒトラーの頃に絵を描いては行けないとかあったことは少し前なので知っていて自由に行いたいとしている人がすごく多いと思います。それはやはりそのように上からヒトラーのように抑圧されたおかげというかされたために自由への欲求が強くなったと思います。

詫摩：話を進めますが、1414 人の中で、1800 年生まれから 1905 年生まれまでの作家を調べました。全員で 117 人いましたが、その内 46 人が退廃芸術関係作家で、その割合は 39.3％でした。この数字は全体の割合とほぼ同じです。戦後に 3 回の退廃芸術を検証することも行っていますが、そのような社会の努力が、現代も政治的社会的作家の同じ割合として推移していると言えるかもしれませんが、率直な意見でいいのでどう思われますか？

Jonas：絶対そうだと思います。ナチスが当時、退廃芸術としたものは個人（インディビジュアル）が出ている作品だったので当時ナチスがしていたことは規格化ということで全てを規格化して当てはめる、そうでないものは全て退廃芸術として烙印を押しました。説明するのがとても難しいですがナチがそのように規格化をしたおかげでその後、そういうことに反対するためにも個人性を強く出すということが行われました。上から決められたこのようにしてくださいというのに反対するために個人性を出します。出すのに表現としてとても便利なのがアートです。挑発するということをよくアートではします。

また、1999 年よりドイツにアトリエを構え活動している日本の作家、井上廣子氏も同じく、キュンストラーフェアアインの重要性とナチを引きずっている作家の多さを指摘し、作家が活動する理由として自己のポリシーを守るためであることを強調した。

これら、インタビューをまとめると、ここまで、皮肉、ユーモア、政治的社会的作家が

多い理由について、インタビューをする前には、戦後の努力によりこのように皮肉、ユーモア、政治的社会的な作家が多くなったと思っていたが、インタビューをした結果、その前から、多かった事が明らかとなった。一方で、ヒトラーによる迫害により、型に当てはまることを極端に嫌っていて、それはキュンストラーフェアアイン（マラカステン）により、市民にも根付いていることを理解することができたが、その点に関してはまだ資料不足の点もあるので、今回はインタビューの事実を記録にとどめることにし、今後も調査を続けたい。

5. 結論

今回調査をして、まず10000位の中にドイツの作家が1414人いた事実に驚かされた。そしてそのすべての作家がオリジナリティに優れ、多様性に富んでおり、調べていく中で、はじめの違和感はますます増して行き、どうしてこれで成り立っているのかの驚きの連続だった。美術館で展覧会を行うにいたらない若手の作家が発表する公立のスペースが多々あることも今回のインタビューにより知ることができ、ドイツに優れた作家が多い理由としても考えられる。そしてドイツ国籍の作家1414人を調べた結果、4割弱の作家が、皮肉やユーモア、政治的社会的作家であることが今回の調査で明らかとなった。様々なところで行われる国際展ではそのような作品が多いことを多くの人が何となくは感じているもののこのように数字で明らかとしたことには意義があるだろう。絵画に関しても、ほぼ同じ数字であったことも今回の調べで明らかとなった。また、ここまで、ドイツで皮肉、ユーモア、政治的社会的作家が多い理由について、立場の違う複数の人にインタビューをした結果、キュンストラーフェアアイン（マラカステン）の存在の大きさを理解したが、この点についてはまだ資料不足の点も否めないので、今回は記録のみに留めたい。筆者が滞在した2014年の全く同じ時期に、ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツではキーファーの大規模な回顧展が、同じくロンドンのテート・モダンではポルケのやはり大規模回顧展、そしてニューヨークのグッゲンハイムでは、Felix氏が話してくれた「ゼロ」の大きな展覧会（これは未見である）が行われ、世界中でドイツ美術に注目が集まっており、質の高さを思い知らされた調査となった。最後に本研究を行うにあたり、快くインタビューを引き受けて下さった、Dr. Bettina Baumgärtel氏、Felix Droese氏、Michael Jonas氏、また Felix氏とのインタビューのセッティングに協力いただいた井上廣子氏、山田浩之氏、そして通訳の浅野芳子氏、岡本あきこ氏に深く感謝申し上げたい。

――注・参考文献

（1） “ArtFacts.net”, http://www.artfacts.net/　展覧会の数をカウントし、ランキング化しているサイト
（2） Jenni Sorkin, “frieze : review”, 2001, http://www.frieze.com/issue/review/thomas_demand/,（閲覧日：2015年8月15日）

（3） シュテファン・ラックナー『Max Beckmann』（水沢勉訳）、美術出版社、1983 年、p.10
（4） 神林恒道『ドイツ表現主義の世界』法律文化社、1995 年、p.8
（5） 同上、p.12
（6） シュテファン・ラックナー『Max Beckmann』（水沢勉訳）、美術出版社、1983 年、p.9
（7） Claus Baumann, *Es war einmal...Vom Mythos der Leipziger Schule*, Plöttner Verlag, Leipzig, 2013, p.69
（8） 伊東豊子『美術手帖 12 月号』美術出版社、2014 年、p.193
（9） Gregory H. Williams, *Permission to Laugh: Humor and Politics in Contemporary German Art*, University of Chicago Press, 2012, p.55
（10） Yasuo Ishii, “A study of reconstruction of realism as the act of representing an object”, 麻布大学雑誌 17/18、2008 年、p.1
（11） 同上
（12） 関楠生『ヒトラーと退廃芸術』河出書房新社、1992 年、p.252
（13） ハイナー・シュタッヘルハウス『評伝ヨーゼフ・ボイス』（山本和弘訳）美術出版社、1994 年、p.29
（14） Olav Westphalen, https://www.youtube.com/watch?v=kK7scA-9288&feature=share（閲覧日：2015 年 8 月 15 日）
（15） Aram Bartholl, http://www.datenform.de/mapeng.html（閲覧日：2015 年 8 月 15 日）
（16） https://www.pinterest.com/akihitotakuma/irony-humor-and-politics-in-german-art/（閲覧日：2015 年 8 月 15 日）
（17） https://www.pinterest.com/akihitotakuma/irony-humor-and-politics-in-german-painting/（閲覧日：2015 年 8 月 15 日）
（18） Guido Westerwelle, *The DÜSSELDORF SCHOOL OF PAINTING and its International Influence 1819 – 1918*, Michael Imhof Verlag, 2011, p.6